

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援センターにじいろ		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 1日		～ 2024年 11月 29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	(児童) 17 (放デイ) 51	(回答者数) (児童) 13 (放デイ) 26
○従業者評価実施期間	2024年 11月 1日		～ 2024年 11月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 24
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・専門職(作業療法士・言語聴覚士・臨床心理士)を配置している。	・専門職のアドバイスのもと、遊具等の効果的な使い方、こどもの発達課題に応じた支援の仕方、保護者への関わり方等を工夫しながら取り組んでいる。	・こどもの支援に関するミーティング等に専門職が積極的に参加したり、実態把握や支援に関する研修の機会を設けたりする。
2	・理学療法士等の外部講師が定期的に来所、専門的な内容のスキルアップを行っている。	・外部講師の意見を踏まえて、重度心身障害等利用者の必要に応じて、本人の快適さの向上を図るためや変形の進行防止、柔軟性の維持のために「機能訓練」のファイルを作成している。	・にじいろの取組の様子について、モニタリング等を通して保護者へ説明はもちろんのこと、他の事業所や園・学校に対しても共有すべき内容については連携を図る。(関係機関連携会議への積極的参加)
3	・部屋数があり、活動内容によって使い分けができる。	・利用者の年齢や特性に応じて、部屋の活動内容を使い分けしている。 (スヌーズレン・ミュージックケア・サーキット・ハンモック等の用具)	・行事企画に合わせて室内環境の整備等を利用者とともに計画・準備し、制作活動等への意欲の向上を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・原則として、週1回利用。		・利用者の必要に応じて、複数回利用の検討を行う。
2	・送迎サービスなし。		・送迎がないことで、送迎時に保護者に対して利用者の様子を丁寧に伝えることができるため、今後も信頼関係の構築を図っていく。
3			